

専攻科だより

海上輸送システム工学専攻第一期生入学

専攻科長 中 哲夫

生産システム工学専攻主任 葛目 幸一

海上輸送システム工学専攻主任 高岡 俊輔

平成17年10月3日に専攻科（海上輸送システム工学専攻）の入学式が挙行され、第一期生として11名が入学しました。平成17年4月に弓削商船高専に念願の専攻科が設置され、4月に生産システム工学専攻の入学式が挙行され、第一期生として8名が既に入学しています。今回の海上輸送システム工学専攻の入学により、専攻科第一期生全員が揃うこととなり、本校の歴史に残る記念すべき日となりました。また同時に、高専の商船学科に学士課程がスタートするのも、我が国の高専史上初めてのことであり、特に記念すべき日となりました。今後は、両専攻が切磋琢磨し、相乗効果を発揮して、商船高専の専攻科ならではの特徴的發展を遂げ、新しい高度専門技術者教育が本格化するものと期待されています。

校長の式辞の概要は次の通りであった。

『本校は長く、海事系分野と工業系分野の実践的技術者の養成のため、常に発展を続けてまいりましたが、今日両専攻が揃いましたので、これらの歯車がかみ合って、新しい高度専門技術者教育が本格化するものと期待されます。

この商船学科の専攻科の設立には、本校関係者はもとより、地元しまなみ地域、文部科学省、高専機構など関係各方面より多大のご声援とご支援を頂きました。それだけに、第一期生のみなさんに向けられる期待と注目は、特に大きいと申せます。みなさんは商船学発展の若い担い手として、最高のスタートを切って、輝かしい成果を上げられるよう望んでおります。

21世紀に入り、科学技術はますます高度化、多様化、複合化しており、また、技術のグローバル化も加速的に進行しています。わが国は、世界有数の工業立国・海運立国として、発展して参りましたが、今後も科学技術創造立国として、世界文明の発展に寄与して行かねばなりません。みなさんには海上輸送に係わる海事総合科学技術を深く学び、且つ発展させることが期待されます。

専攻科では、より高度で最新の専門的知識と技術力を修得し、大学卒と同じ学士（商船学）の学位を目指します。専門的知識を授かるだけでなく、問題提起能力、解析能力および問題解決能力を高めるよう教育が行われます。みなさんは、運航技術を熟知した上での海事管理技術、すなわち運行管理と機関管理の学術を修得することとなります。この点で商船高専の専攻科は、海事系大学等とは教育プログラムにおいて大きく異なり特徴的であります。また、専攻科では、7年間一貫教育のメリットが生かされますので、大学院修士レベルの高度の専門的技術力の修得も可能となります。

これから高専専攻科生にとって大切なことは、ディ

スカッションやプレゼンテーション能力、報告書（特に論文形式の報告書）の作成能力を高めることも必要です。また、国際的に通用する技術者が求められていますから、積極的に外国語の文献や資料の扱いに慣れることも大切です。得られた成果は、出来るだけ専門の学会や研究会で口頭発表すると共に、成果をまとめて論文に発表して、多くの人に評価してもらうようにして下さい。さらに、特許等の知的財産権取得にも意欲的であって欲しいと思います。』

実用新案登録

生産システム工学専攻1年の横田耕一君が平成17年7月13日に実用新案登録証を特許庁より取得しました。考案の名称は「マグネトロン（マイクロ波）による流体加熱器」です。

専攻科のアドミッション・ポリシー

本専攻科では、入学者として次のような人を広く求めます。

(1) 海上輸送システム工学専攻

工学的素養を身につけ海事関係分野で活躍したい人

海上輸送管理技術を身につけ社会で活躍したい人

(2) 生産システム工学専攻

手と頭脳が同時に働く実践的技術者を目指す人

コミュニケーション能力と国際感覚を備えたい人

海上輸送システム工学専攻（第一期生）

1. 石川祐二（航海系）
2. 岩本祐輔（機関係）
3. 岡野 豊（機関係）
4. 栗本裕和（航海系）
5. 竹林君孝（航海系）
6. 多田京太（航海系）
7. 玉田大輔（機関係）
8. 早柏正幹（機関係）
9. 福万祥数（機関係）
10. 山下真史（機関係）
11. 吉田正人（機関係）



専攻科・第一期生